

Lalitavistara と『如来秘密經』の仏伝の対応関係

伊 久 間 洋 光

1. はじめに

『密迹經』等の名で『大智度論』に引用される初期大乘經典『如来秘密經』¹⁾には、苦行から転法輪までの仏伝が説かれている。しかしその詳細は未だ検討がなされていない。本稿では『如来秘密經』の仏伝について、*Lalitavistara* との並行箇所を検討から、その諸仏伝における系統について指摘したい。

2. 『如来秘密經』の仏伝と *Lalitavistara* 降魔品の共通する素材

『如来秘密經』の仏伝は法護訳第 11–14 章（菩薩苦行超勝以受食縁成熟衆生品・菩薩詣菩提場品・降魔品・転法輪品）、梵文写本²⁾では第 6 章 *tathāgatavikrvaṇasaṃdarśana-parivarta*-に記され、菩薩の 6 年間の苦行から転法輪に至るまでを説いている。

Lalitavistara（以下 LV）は 2 世紀半ば頃の成立と考えられる、大乘の立場からの仏伝である。漢訳に竺法護訳『普曜經』、地婆訶羅訳『方広大莊嚴經』がある。LV は内容上、大衆部との関連が指摘されている³⁾。

『如来秘密經』の仏伝の降魔の場面において、菩薩を害しようとする悪魔に対し、樹神が十六種の制止をなす場面が存在する。一方 LV の降魔品においても、同様の記述がなされる（LV 333–335）。構文は異なるものの、両者の内容はほぼ逐語的に対応している。以下に『如来秘密經』梵文写本の当該箇所を提示する⁴⁾：

upasaṃkrāntā kulaputra mārāpaṇśadaṃ viditvā bodhiparicārikā devatānāṃ mārāṃ pāpīyasah
śoḍaśākārayā vicchandanayā vicchandayanti sma //

alaṃ pāpīyaṃsaḥ kiṃ⁵⁾ ca etair evaṃrūpaṃ⁶⁾ vighātautsāhair⁷⁾ duruttaraiḥ / tat kasmād

① adya yūyaṃ pāpīyaṃso⁸⁾ nihaniṣyac ca bodhisatvena mahāmalleṇeva durvaṇṇataraḥ mallah [/]

② adya yūyaṃ pāpīyaṃsaḥ parājiṣyac⁹⁾ ca bodhisatvena mahāśūreṇeva parasainyaṃ [/]

③ adya yūyaṃ pāpīyaṃso 'bhibhaviṣyac¹⁰⁾ ca bodhisatvena candramaṇḍaleṇeva¹¹⁾ khadyotāḥ [/]

④ adya yūyaṃ pāpīyaṃso¹²⁾ vikṣepsyac ca { / } bodhisatvena māruteneva tuṣaṃṣṭīḥ¹³⁾ [/]

- ⑤ adya yūyaṃ pāpiyāmsaḥ prapātayiṣyac ca bodhisatvena mahāśāla iva mūlacchinnāḥ /
- ⑥ adya yūyaṃ pāpiyāmsa¹⁴⁾ trāsayiṣyac ca {/} bodhisatvena mahākeśariṇeva mṛgagaṇaḥ /
- ⑦ adya yūyaṃ pāpiyāmsaḥ paryādāpayiṣyac ca {/} bodhisatvena gos padasthāna¹⁵⁾ iva vāriḥ
sūryatāpena /
- ⑧ adya yūyaṃ pāpiyāmsa vilopsyac ca {/} bodhisatvena amitranagaram iva mahārājena /
- ⑨ adya yūyaṃ pāpiyāmsa¹⁶⁾ ālokyac ca bodhisatvena vadhyanirmukta iva dhūrttapuruṣaḥ /
- ⑩ adya yūyaṃ pāpiyāmsaḥ sambhramayiṣyac ca {/} bodhisatvena agnidāha iva pathyadanasaṃṛddho
vanik /
- ⑪ adya yūyaṃ pāpiyāmsaḥ śoṣiṣyac ca {/} bodhisatvena adharmaṛāja i[va] rājyāt cyutaḥ /
- ⑫ adya yūyaṃ pāpiyāmsa dhyāpayiṣyac ca {/} bodhisatvena jīrṇakroñca iva {va} lūnapakṣaḥ /
- ⑬ adya yūyaṃ pāpiyāmsa¹⁷⁾ vighātayiṣyac ca {/} bodhisatvena aṭavikāntāragatā iva kṣīṇapathyadanā /
- ⑭ adya yūyaṃ pāpiyāmsaḥ plāvaiṣyac ca {/} bodhisatvena sāgaramadhyagatā iva bhinnayānapātrāḥ
[/]
- ⑮ adya yūyaṃ pāpiyāmsa¹⁸⁾ mlāpayiṣyac ca {/} bodhisatvena kalpadāhakāla¹⁹⁾ iva tṛṇavanaspatayaḥ /
- ⑯ adya yūyaṃ pāpiyāmsa²⁰⁾ vikariṣyac ca {/} bodhisatvena mahāvajreṇeva pāṣāṇaḥ /

evaṃ hi kulaputra bodhivṛkṣapāricārikā devatā tān mārāṃ pāpiyāmsaḥ ṣoḍaśākārāyā viccandayā
vicchandayati sma / na ca te mārāḥ pāpiyāmsaḥ pratyudāvarttante sma // (『如来秘密經』 梵文写本
16a2–b2)

上記の樹神による制止は LV の梵本および竺法護訳『普曜經』に見られる。また LV の梵本とは別系統とされる異訳『方広大莊嚴經』には「十六趣言詞」とのみ説かれ、詳細は述べられていない。

『如来秘密經』の諸本を見ると、上記に相当する箇所は竺法護訳『大宝積經』「密迹金剛力士会」にすでに述べられている。そのことから、竺法護による両經典の初訳において、当初から『如来秘密經』の仏伝と LV とが共通の素材に基づいていることが確かめられる²¹⁾。

3. 諸仏伝における『如来秘密經』の仏伝の系統

上記の検討によって、『如来秘密經』の仏伝と LV とが共通の素材に基づいていることが確かめられた。本項ではその両經典に共通する素材の有無を指標として、諸仏伝における『如来秘密經』の仏伝の系統を確認する。

仏伝の諸系統を俯瞰すると、まず有部の資料である『根本説一切有部毘奈耶』には当該の記述は見られない。またパーリの資料には降魔の記述はないため、当該の並行箇所もない。サンスクリット語で記された仏伝においては、*Buddhacarita* には当該の記述はない。一方、LV および『如来秘密經』と関係を有する²²⁾

Mahāvastu (II-270) の降魔の記述には一部並行箇所が認められる、しかし *Mahāvastu* (以下 MV) の並行箇所は数が14と異なり、発話者は樹神ではなく菩薩であり、内容も一部しか合致しない。また、漢訳の仏伝資料には、『仏本行集經』のみに当該箇所と一致する箇所が認められる。『仏本行集經』の並行箇所は『如来秘密經』の仏伝および LV に逐語的に一致している。しかし岡野 1991 によって、『仏本行集經』が LV と *Buddhacarita* からなる改作仏伝であり、当該の並行箇所は LV に基づいていることが既に指摘されている。

以上を整理すると、『如来秘密經』の仏伝と LV の共通の素材は、両典籍に関係する MV に見出だされるが、全同ではない。また漢訳資料には、当該の箇所は、両典籍の他、LV の系統の『仏本行集經』にしか確認されない。

以上のことから、次の結論が導かれる。即ち、『如来秘密經』の仏伝が、LV の系統の仏伝であるということである。『普曜經』の訳出年は308年であるが、後述するように、岡野 1990 は『出三蔵記集』の記述等から、LV の原型（古 LV）の成立年代を西暦200年より数十年遡ると想定している。一方『密迹金剛力士經』の訳出年は『普曜經』より20年早い288年であり、前後関係から、『密迹金剛力士經』が直接『普曜經』を借用したとは考え難い。そのことから、『如来秘密經』の仏伝は、LV の原型たる古 LV か、或いは第三の共通するソースを素材として編纂されたと考えられる。

4. *Lalitavistara* の成立年代

LV の成立年代の下限は、まず竺法護訳による『普曜經』の訳出年（308年）に求められる。しかし岡野 1990 により、『出三蔵記集』巻四「新集統撰失訳雜經録」中の「蜀普曜經八卷 旧録所載似蜀土所出」という記述から、より古い LV の訳出が知られることが指摘されている。この記録によれば、蜀（221–263年）に LV の初訳がなされたことになる。また Matsuda 1989 により、『太子瑞應本起經』（222–252年に訳出）に『普曜經』の十八變品の箇所が含まれていることが指摘された。これについて、岡野 1990 は『太子瑞應本起經』が既に中国に伝わっていた LV の原典から取られたと見做すべきであると指摘し、LV の成立の下限を『太子瑞應經』の訳出年代である222–252年以前に遡らせる根拠とした。そして上記の2点等から、岡野 1990 は、LV の成立年代を西暦200年より数十年遡ると推測した。

本稿の考察により、288年の初訳である『如来秘密經』の仏伝が LV の系統であることが確かめられた。その『如来秘密經』の仏伝は古 LV を素材として編纂

されたと見做しうる。そのことから、『如来秘密経』の編纂と伝播の期間も考慮し、編纂材料である古 LV の成立は『如来秘密経』初訳の288年よりさらに半世紀程遡ると考えられる。また、『如来秘密経』は梵文原典の現存する資料である。その為、以上のことは、LV の成立年代に関し、中国の資料によった岡野1990の推定を、梵文資料に基づいて間接的に裏付けるものとなる。

- 1) 『如来秘密経』は古くは *Guhyakādhīpatinirdeśa* (『密迹金剛力士経』)、後には *Tathāgata-guhyasūtra* (『如来秘密経』) の名で論書に引用されている。浜野1987を参照。
- 2) 『如来秘密経』梵文写本の詳細については伊久間2013を参照。筆者は現在、当該梵文写本の校訂を準備中である。
- 3) 岡野1990を参照。
- 4) 以下、『如来秘密経』の梵文写本 (Ms.) の校訂は筆者による。校訂文中の { } は取り去るべき文字を、[] は加えるべき文字を示す。
- 5) Ms. kiñ.
- 6) Ms. evamrūpaiḥ.
- 7) Ms. vighātautsāhaiḥ.
- 8) Ms. pāpīyāṃsaḥ.
- 9) Ms. parājiṣyec.
- 10) Ms. pāpīyāṃsaḥ abhibhaviṣyac.
- 11) Ms. candramaṇḍalenaiva.
- 12) Ms. pāpīyāṃsaḥ.
- 13) Ms. yusamuṣṭiḥ. Tib. phuñ ma, 法護訳「糠糝」に従い訂正。
- 14) Ms. pāpīyāṃsaḥ.
- 15) Ms. padastham. Tib. rjes, 法護訳「牛跡」に従い訂正。
- 16) Ms. saḥ. ḥ が筆写生により削除の指示をされている。
- 17) Ms. pāpīyāṃsaḥ.
- 18) Ms. pāpīyāṃsaḥ.
- 19) Ms. kalpo dāhakāla.
- 20) Ms. pāpīyāṃsaḥ.
- 21) 常盤1930によって、LV に見られる十六種の制止のうち、③萤火・⑦牛跡の喩えが『維摩経』に見られることが指摘されている。その『維摩経』は『如来秘密経』の関連経典と考えられる。伊久間2016を参照。
- 22) MV と『如来秘密経』の関係については伊久間2016を参照。

〈一次資料〉

・『如来秘密経』

梵文写本: See Śāstri 1917, No. 18.

梵文写本翻刻: 伊久間2014, 2015.

翻訳:

Tib. ḥPhags pa de bshin gśegs paḥi gsañ ba bsaṃ gyis mi khyab pa bstan pa shes bya ba theg pa chen poḥi mdo Toh. No. 47, Ota. No. 760–3.

Chi. 『大宝積経』「密迹金剛力士会」竺法護訳 大正 No. 310.

『仏説如来不思議秘密大乘経』法護訳 大正 No. 312.

〈二次資料〉

欧文

Matsuda, Yuko. 1988. "Chinese Version of the Buddha's Biography." *IBK* 37(1): 24–33.

Śāstri, Haraprasād. 1917. *Descriptive Catalogue of Sanskrit Manuscripts in the Asiatic society of Bengal*. Vol. 1. Calcutta: Asiatic society of Bengal.

Senart, E. 1882–1897. *Le Mahāvastu*. 3 vols. Paris: Imprimerie Nationale.

和文

伊久間洋光 2013 「『如来秘密経』の梵文写本について」『印仏研』61(2): 171–175.

——— 2014 「『如来秘密経』梵文写本の翻刻——法護訳第25章: *Tathāgaguhyā(kā) Dhāraṇī* 対応箇所——」『豊山学報』57: 108–91.

——— 2015 「『如来秘密経』梵文写本の翻刻——法護訳第23章・第24章対応箇所——」『豊山学報』58: 88–47.

——— 2016 「一字不説——『如来秘密経』の神変を中心に——」『密教学研究』48: 1–14.

岡野潔 1990 「普曜経の研究（下）」『文化』53(3/4): 249–268.

——— 1991 「ブッダチャリタの改作伝について——仏本行集経と方広大莊嚴経に用いられた未知の伝——」『インド思想における人間観（東北大学印度学講座設立65周年記念論文集）』平楽寺書店, 57–77.

常盤大定 1930 『国訳一切経印度撰述部 本縁部九』大東出版社.

浜野哲敬 1987 「『如来秘密経』の仏陀観」『印仏研』36(1): 42–46.

外蘭幸一 1994 『ラリタヴィスタラの研究 上巻』大東出版社.

〈キーワード〉 初期大乘経典, 竺法護, 『普曜経』, 降魔

(大正大学総合仏教研究所研究員)